

令和8年5月14日  
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病害虫防除室 直通：257-6972
--

## 令和8年度病害虫発生予報第2号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 5月下旬～6月中旬

2 予報内容

(1) 水稲

**葉いもち**の発生は**やや多**と予想される。本田に放置された補植苗は伝染源となるので、直ちに除去する。箱施薬していない場合は6月中旬に予防粒剤を散布する。発生を認めた場合は初期の防除を徹底する。

**イネミズゾウムシ**の発生は**やや多**と予想される。箱施薬していないほ場では田植え後のほ場巡回に努め、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

**斑点米カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の除草を徹底する。

(2) 大豆

**ネキリムシ類**の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

(3) 果樹

**ナシ黒斑病**及び**リンゴ斑点落葉病**の発生は**やや多**と予想される。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**カキ炭疽病**の発生は**やや多**と予想される。感染しやすい徒長枝および不定芽を除去する。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

**シンクイムシ類**の発生は**多**と予想される。被害を受けた新梢を直ちに摘除し、土中深くに埋設する。

**ハマキムシ類**の発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

**ハダニ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

**アブラムシ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**アザミウマ類**の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

**カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

#### (4) 野菜・花き

**スイカつる枯病**及び**スイカ炭疽病**の発生は**やや多**と予想される。ほ場排水に努めるとともに、トンネル除去時及び発病初期の防除を徹底する。

**ネキリムシ類**の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

**アブラムシ類**、**コナジラミ類**、**アザミウマ類**、**ハダニ類**及び**ハモグリバエ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。